

過去の出題傾向について確認しておこう！

## 阪大入試研究[生物]

### ▶ 出題一覧表

過去10年分の大阪大学の入学試験(生物)で、出題された分野を次の表にまとめた。

	〔1〕	〔2〕	〔3〕	〔4〕
2016	視覚刺激と行動	呼吸	遺伝子の発現	糖尿病とグリコーゲン代謝異常
2015	視神経と網膜神経節細胞	選択的スプライシング	概日リズム	体液の浸透圧調節
2014	自律神経・神経伝達物質	植物ホルモン(オーキシンの極性移動・遺伝)	遺伝子の転写調節	タンパク質の分解(オートファジー)
2013	免疫	受容器(聴覚)神経	遺伝子発現の調節(ラクトースオペロン)	遺伝発生(生殖細胞)
2012	植物の配偶子形成種子の遺伝(補足遺伝)	マクロファージの活性化	血中カルシウム濃度調節	自然浄化(生態系)系統分類
2011	光合成	細胞周期	発生(神経系の分化誘導)	免疫(体液性免疫と細胞性免疫の二次応答)
2010	光合成	細胞内のタンパク質輸送	細菌の突然変異	免疫(移植医療)
2009	花粉の形成	タンパク質の構造 遺伝子疾患	ヒトの血液 遺伝暗号 細胞周期	興奮の伝導と伝達
2008	免疫	神経系の発生	タンパク質合成	花粉管の伸長 果実形成
2007	植物ホルモン	心臓の拍動調節	遺伝	膜タンパク質

### ▶ 分析と対策

- 植物関連の問題が、毎年出題されている。
- 神経(2008・2009・2013・2014・2015・2016)・免疫(2008・2010・2011・2012・2013)・発生(2008・2011・2013)・生殖(2008・2009・2012)・光合成(2010・2011)のように、同じ分野の問題が繰り返し出題されている。
- 免疫、あるいは神経か動物の恒常性関連の問題のいずれかが、必ず出題されている。

阪大の入試問題の印象として、「難解で解きにくい」、「教科書の範囲外の内容が出題される」といったことが挙げられるが、実際にはそのようなことはなく、基礎知識や教科書に載っている実験からの出題も多いので、まず、教科書を中心とした学習から始めるべきであろう。また、年度により増減はあるものの、全体の論述量が500~1000字程度と多めであり、さらに100~160字という長めの字数制限の設問があることが多いのも特徴であろう。論述しにくい設問であっても、論述の手がかりとなる定義や条件は必ず前文などに示されているので、総合的な知識に加え、前文や設問文の読解力や自分が理解したものを論述する力を身につけるようにしよう。